

話し合いましたよー！

「大切に生きてきたこと生きがいになったこと」

平成31年度
総会記念
講演会

平成31年3月4日午後3時から北見赤十字病院の大会議室(北館3階)で北見赤十字病院の循環器内科部長・齋藤高彦先生を講師に迎え、見出しの演題で平成31年度総会記念講演会を開催した。

齋藤先生の略歴は▽1993年、大阪大学医学部を卒業、北大付属病院・循環器内科に勤務▽2001年、北海道大学大学院医学研究科博士課程を卒業、函館中央病院内科医長に就任▽2008年、北見赤十字病院循環器内科部長に招聘され現在に至る

また日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本プライマリ・ケア連合学会指導医などの資格を有している。人は病気になるとうるから患者・家族・医療者がこれからのことを話し合っておいた方が良く、先生は語りはじめた。大切に生きてきたこと、生きがいとなっ



会場は70名ほどの聴衆で埋まり、盛会であった

ていること、心配なこと、して欲しいこと、して欲しくないこと、どのようにごしたいか、どのような治療を望むか、など一人一人その考えは違い、それぞれに事情があります。元気なところから患者・家族・医療者がこれからのことを話し合い決めておくことが大切です。

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)、愛称・人生会議は前記の考え方に基づいて作られたものです。意識がなくなったら、家族などが代わりに治療を選ぶことになりま

す。あらかじめ、あなたの気持ちを一番わかってくれる人に話をすることが大事です。このことをお

そかにすると家族がためらいや後悔をしまつてつらい思いをします。

聞いて貰いたい人にあなたの本音を是非話をしてみて下さい。

希望や思いはその時々で変わります。医療者や介護職の方と繰り返し話し合う必要があります。でも、やっぱり、死ぬ時のことは考えたくないと思うのが私たちの常です。

人生会議(ACPの愛称)やエンディングノートの図を示し、最期の時のことを、無理して考えた



ユーモアを交えて和やかに話す齋藤講師

り、話しをしたりする必要はありません。最初は、話したい相手に、話したい範囲の内容でかまいませんと説明し、最後に聴講のお礼を述べ講演を終了した。

ACPは終末期医療の時のことと思っていたので、私たちには重く避けたい話題です。講師はソフトに解りやすく負担にならないように話を下さった。

日本人の平均余命は女性が87才、男性が81才で、当方はその範囲に近づいています、大変有意義な内容であった。

『地域医療や改築問題を：考えよう、有志が北見赤十字病院「支援する会」、16日発足「若い世代に参加」との見出しの平成21年12月2日付け道新のスクラップが手元に在ります。この報道で谷川発起人代表に連絡したのが会との出会いです。

12月16日、発足準備の会合を経て、平成22年1月29日、市民会館で発足総会が開かれた。この時、病院の村田千恵子管理栄養士が講話を行って下さったのが講演会の始まりです。

途中の1回だけの空白も数えると今年で10回目を迎え、感慨無量です。

4月1日、新元号が発表になります。会の積み重ねた歴史を振り返り、新たな局面に取り組みます。(逢坂)

